

石狩川ものがたり

ともに歩んだ大河と人々の歴史 『石狩川ものがたり』研究会 編

石狩川の流域で繰り広げられた開発と治水の歴史。

明治の開拓期、戦後の農地拡張、度重なる水害、気候変動による新たな課題までを描く



A5判 160頁 定価1980円(税込)

目次

- 第一章 石狩川流域への入植の始まり
- 第二章 大水害がきっかけとなった治水事業
- 第三章 戦後復興と石狩川流域の発展
- 第四章 大洪水と治水計画の見直し
- 第五章 気候変動の始まりと私たちの備え

北海道で最も長い河川、石狩川とともに歩んだ人々の営みを描く。明治の開拓期に流域では水運を利用して屯田兵や開拓団の入植が進んだが、度重なる水害にも悩まされた。治水事業には最新の技術が導入され、農地は広がり、北海道を食糧の一大生産地に成長させる原動力となった。1981年夏に大きな被害をもたらした「56水害」を経て、さまざまな治水計画が試みられたが、地球温暖化に伴う気候変動で今、新たな課題に直面している。歴史的な写真や図版を掲載し、石狩川と人々の闘いと共生の歩みを振り返る。

